

E.

緑のネットワーク

この分野は、「緑」に関わる要素のうち、市街地の緑を創出し、それらの緑の点を里山の緑から線で結びネットワーク化するための取組に関するものを対象としています。

こんな環境や社会にしたい！！



環境まちづくりビジョン

【道沿いの緑】

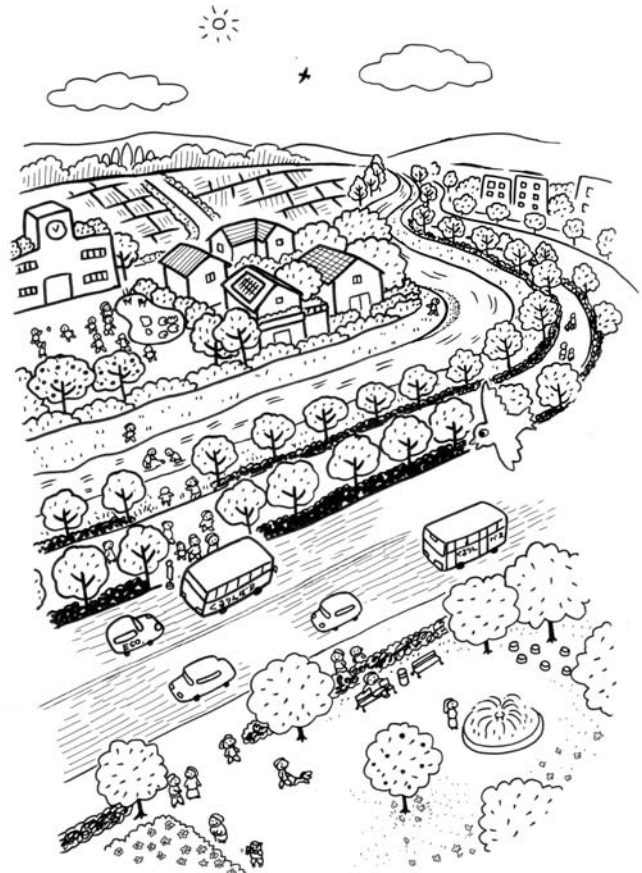
市街地には木陰のある道路が続いている

【川沿いの緑】

天白川・岩崎川など川沿いに並木が続いていて、子ども達の声が響いている

【緑化】

緑を保全するために、市民・事業者・行政みんなが協力参加している



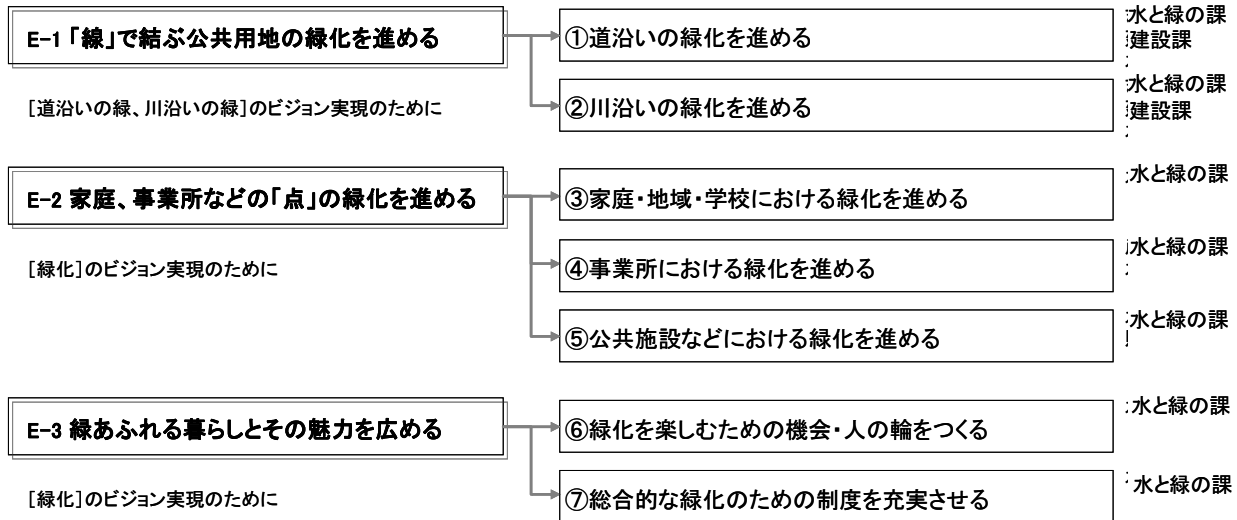
環境指標と数値目標

NO.	指標名	現状値[H.19]		短期目標[H.25]	長期目標[H.35]
			箇所		
E 1	残したい樹木・樹林の指定数		箇所	3 8	1 0 0
E 2	市民に開放された樹林地箇所数	1 4	箇所	2 8	5 0

[検討・把握する環境指標] 航空写真から見た「緑」の割合、緑の回廊延長、敷地面積 1,000m² 以上事業所の緑化率 30%以上の割合

環境まちづくりプログラム

施策の体系



E-1 「線」で結ぶ公共用地の緑化を進める

東部丘陵、点在する小規模な里山、あるいは家庭や事業所などの緑を「線」で結び、緑のネットワークをつくっていくために、川沿い、道路沿いの緑化を進めていきます。

[施策メニュー]

沿線住民の落葉・日照・害虫の理解協力要請、ライオンズクラブ・ロータリークラブなど事業者団体や市民からの寄付制度、植栽可能路線の調査、植栽実施計画の立案（植栽樹種、植栽地域、管理者（国・県）の調整、市民ボランティアによる管理委託（アダプトプログラム制度の導入）、愛称募集（並木）河川への植栽方法の検討、天白川沿いの散策コースとポケットパークの整備



市中央部の風景



河川沿いへの植樹（岩崎川）の様子

E-2 家庭、事業所などの「点」の緑化を進める

緑のネットワークのポイントである家庭、事業所、公共施設などの敷地緑化を進めていきます。

【施策メニュー】

ライオンズクラブ・ロータリークラブなど事業者団体や市民からの寄付制度、地域緑化ボランティアの育成、市民の森づくり、緑の維持・管理をするための新しいビジネス創出
 事業所ごとのボランティアの育成、省エネ・環境に配慮した建築緑化の促進、緑化に取り組む事業者への優遇措置（補助金制度等）、工場緑化推進条例
 公共施設における緑化、社寺林の保全、各所での「ピオトープ」²⁴づくりの推進

E-3 緑あふれる暮らしとその魅力を広める

日進の風土にあった緑、壁面や屋上緑化などの緑化の知識を伝え、緑化を楽しむ人の輪を広げていきます。また、人が快適と感じる緑の量を考慮した地域の戦略的な緑化目標やその手段について検討していきます。

【施策メニュー】

お庭自慢コンテストの開催、緑に関する研修会等の開催、市民・事業所別花壇、緑化コンクールの開催、花いっぱい運動の推進、公園コンテストの開催、緑のまちづくり功労者表彰制度、大切にしたい木を守り育て増やす運動、残したい樹木・樹林 100 選の実施
 緑の市民憲章の制定、生け垣条例、緑化基金の創設による財源の確保、緑化条例の制定、緑の確保の数値目標設定、緑のネットワーク化計画の策定、緑化地域制度など市街化区域内緑地の保全方策の検討



にっしんオープンガーデンの様子

²⁴ ドイツ語の Bio(生物)と Top(場所)の合成語で、「野生生物が共存共生できる生態系をもった場所」という意味。最近では、生物が共生できる空間を保全、創出または復元した場所としてとらえられるようになっている。